

外国語科目の履修要領・教育課程表 （2014年度入学者に適用）

機械工学科

必修科目としての外国語	英語 8 単位を修得しなければならない。 ただし、日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。											
選択科目としての外国語 (必修以外に外国語を履修した場合)	同一言語同一名称の科目を ・ のペアで修得した場合、6 単位まで卒業要件中の「関連科目」に算入する。 (選択科目としての英語については、下記の英語の履修方法を参照のこと)											
英語の履修方法	必修科目としての英語 必修科目の英語は、プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前期と後期（ ・ ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。 1 年次では <table border="0"> <tr> <td>英語コミュニケーション(Listening) (前)</td> <td rowspan="4">} 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。</td> </tr> <tr> <td>英語コミュニケーション(Listening) (後)</td> </tr> <tr> <td>英語コミュニケーション(Speaking) (前)</td> </tr> <tr> <td>英語コミュニケーション(Speaking) (後)</td> </tr> 2 年次では <table border="0"> <tr> <td>実用英語 (前)</td> <td rowspan="2">} 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。</td> </tr> <tr> <td>実用英語 (後)</td> </tr> 3 年次では <table border="0"> <tr> <td>実用英語 (前)</td> <td rowspan="2">} 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。</td> </tr> <tr> <td>実用英語 (後)</td> </tr> </table> </table></table> 再履修の方法 1 年次の必修科目としての英語を修得できなかった場合は、英語 RE- または英語 RE- （各1単位）を履修しなければならない。ただし、履修できる単位は英語の不足単位分のみであり、履修する年度で同一教員の同じ授業科目を複数履修できない。(合格者の成績は、原則として「可」となる) 2・3 年次の必修科目としての英語を修得できなかった場合は、当該科目を再履修しなければならない。 選択科目としての英語 「外国語科目教育課程表」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。	英語コミュニケーション(Listening) (前)	} 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。	英語コミュニケーション(Listening) (後)	英語コミュニケーション(Speaking) (前)	英語コミュニケーション(Speaking) (後)	実用英語 (前)	} 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。	実用英語 (後)	実用英語 (前)	} 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。	実用英語 (後)
英語コミュニケーション(Listening) (前)	} 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。											
英語コミュニケーション(Listening) (後)												
英語コミュニケーション(Speaking) (前)												
英語コミュニケーション(Speaking) (後)												
実用英語 (前)	} 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。											
実用英語 (後)												
実用英語 (前)	} 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。											
実用英語 (後)												
英語以外の外国語の履修方法 (日本語を除く)	英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 それぞれ初級 A ・ A ・ B ・ B , 中級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C ・ D ・ D , 上級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C に分かれる。 本学入学以前に初級程度以上の知識をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を通年で履修しなければならない。 学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、その指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級 A と A または初級 B と B の組み合わせで、2 単位を修得しなければならない。ただし、スペイン語については、原則として初級 A ・ A ・ B ・ B の全てを修得していなければ中級を履修することはできない。上記初級 4 単位のうち 3 単位を修得している場合は、未修得の初級 1 単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級 A ・ A ・ B ・ B のうちいずれか 2 単位を修得していれば中級の履修を認める。											
日本語の履修方法	日本語は「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修には資格認定が必要であるので、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 日本語を必修の外国語とする場合、1 年次に日本語科目を 4 単位、2・3 年次に「実用英語 ～ 」を 4 単位修得することとする。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を、通年で履修しなければならない。											

電気電子情報工学科

必修科目としての外国語		英語 8 単位を修得しなければならない。 ただし、日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。	
選択科目としての外国語 (必修以外に外国語を履修した場合)		同一言語同一名称の科目を ・ ・ のペアで修得した場合、8 単位まで卒業要件中の「選択科目の専門科目」に算入する。(選択科目としての英語については、下記の英語の履修方法を参照のこと)。	
英語の履修方法	必修科目としての英語	必修科目の英語は、プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前期と後期（ ・ ・ ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。	
		1 年次では 英語コミュニケーション(Listening) (前) } 英語コミュニケーション(Listening) (後) } 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。 英語コミュニケーション(Speaking) (前) } 英語コミュニケーション(Speaking) (後) } 2 年次では 英語コミュニケーション(Reading) (前) } 英語コミュニケーション(Reading) (後) } 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。 英語コミュニケーション(Writing) (前) } 英語コミュニケーション(Writing) (後) }	
	再履修の方法 上記の授業科目を修得できなかった場合は、英語 RE- または英語 RE- （各1単位）を履修しなければならない。ただし、履修できる単位は英語の不足単位分のみであり、履修する年度で同一教員の同じ授業科目を複数履修できない。(合格者の成績は、原則として「可」となる)。	選択科目としての英語	「外国語科目教育課程表」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。
英語以外の外国語の履修方法 (日本語を除く)		英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 それぞれ初級 A ・ A ・ B ・ B , 中級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C ・ D ・ D , 上級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C に分かれる。 本学入学以前に初級程度以上の知識をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ・ ）を通年で履修しなければならない。 学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、その指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級 A と A または初級 B と B の組み合わせで、2 単位を修得しなければならない。ただし、スペイン語については、原則として初級 A ・ A ・ B ・ B の全てを修得していなければ中級を履修することはできない。上記初級 4 単位のうち 3 単位を修得している場合は、未修得の初級 1 単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級 A ・ A ・ B ・ B のうちいずれか 2 単位を修得していれば中級の履修を認める。	
日本語の履修方法		日本語は「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修には資格認定が必要であるので、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 日本語を必修の外国語とする場合、日本語科目を 4 ～ 6 単位を修得することとし、8 単位に不足する単位は「英語」で補うものとする。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ・ ）を、通年で履修しなければならない。	

物質生命化学科

必修科目としての外国語		英語 8 単位を修得しなければならない。 ただし、日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。
選択科目としての外国語 (必修以外に外国語を履修した場合)	2012年度以降入学者	「関連科目」に算入することができる。ただし、同一言語で算入できる単位は2単位までとする。
英語の履修方法	必修科目としての英語	必修科目の英語は、プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前期と後期（ ・ ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。 1 年次では 英語コミュニケーション(Listening)（前） 英語コミュニケーション(Listening)（後） 英語コミュニケーション(Speaking)（前） 英語コミュニケーション(Speaking)（後） } 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。 2 年次では 科学技術英語（前） 科学技術英語（後） } 2 科目 計 4 単位を履修しなければならない。
		再履修の方法 1 年次の必修科目としての英語を修得できなかった場合は、英語 RE- または英語 RE-（各1単位）を履修しなければならない。ただし、履修できる単位は英語の不足単位分のみであり、履修する年度で同一教員の同じ授業科目を複数履修できない。（合格者の成績は、原則として「可」となる。） 2 年次の必修科目としての英語を修得できなかった場合は、当該科目を再履修しなければならない。
	選択科目としての英語	「外国語科目教育課程表」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。
英語以外の外国語の履修方法 (日本語を除く)		英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 それぞれ初級 A ・ A ・ B ・ B , 中級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C ・ D ・ D , 上級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C に分かれる。 本学入学以前に初級程度以上の知識をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を、通年で履修しなければならない。 学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、その指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級 A と A または初級 B と B の組み合わせで、2 単位を修得しなければならない。ただし、スペイン語については、原則として初級 A ・ A ・ B ・ B の全てを修得していなければ中級を履修することはできない。上記初級 4 単位のうち 3 単位を修得している場合は、未修得の初級 1 単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級 A ・ A ・ B ・ B のうちいずれか 2 単位を修得していれば中級の履修を認める。
日本語の履修方法		日本語は「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修には資格認定が必要であるので、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 日本語を必修の外国語とする場合、1 年次に日本語科目を 4 単位、2 年次に「科学技術英語 ・ 」を 4 単位修得することとする。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を、通年で履修しなければならない。

情報システム創成学科

必修科目としての外国語	英語 8 単位を修得しなければならない。 ただし、日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。	
選択科目としての外国語 (必修以外に外国語を履修した場合)	同一言語同一名称の科目を ・ のペアで修得した場合、4 単位まで卒業要件中の「関連科目」に算入する。 (選択科目としての英語については、下記の英語の履修方法を参照のこと)	
英語の履修方法	必修科目としての英語	必修科目の英語は、プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前期と後期（ ・ ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。 1 年次では 英語コミュニケーション(Listening) (前) } 英語コミュニケーション(Listening) (後) } 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。 英語コミュニケーション(Speaking) (前) } 英語コミュニケーション(Speaking) (後) } 2 年次では 国際コミュニケーション (前) } 国際コミュニケーション (後) } 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。 3 年次では 国際コミュニケーション (前) } 国際コミュニケーション (後) } 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。
		再履修の方法 1 年次の必修科目としての英語を修得できなかった場合は、英語 RE- または英語 RE- （各1単位）を履修しなければならない。ただし、履修できる単位は英語の不足単位分のみであり、履修する年度で同一教員の同じ授業科目を複数履修できない。(合格者の成績は、原則として「可」となる) 2・3 年次の必修科目としての英語を修得できなかった場合は、当該科目を再履修しなければならない。
	選択科目としての英語	「外国語科目教育課程表」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。
英語以外の外国語の履修方法 (日本語を除く)	英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 それぞれ初級 A ・ A ・ B ・ B , 中級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C ・ D ・ D , 上級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C に分かれる。 本学入学以前に初級程度以上の知識をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を通年で履修しなければならない。 学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、その指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級 A と A または初級 B と B の組み合わせで、2 単位を修得しなければならない。ただし、スペイン語については、原則として初級 A ・ A ・ B ・ B の全てを修得していなければ中級を履修することはできない。上記初級 4 単位のうち 3 単位を修得している場合は、未修得の初級 1 単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級 A ・ A ・ B ・ B のうちいずれか 2 単位を修得していれば中級の履修を認める。	
日本語の履修方法	日本語は「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修には資格認定が必要であるので、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 日本語を必修の外国語とする場合、1 年次に日本語科目を 4 単位、2・3 年次に「国際コミュニケーション ～ 」を 4 単位修得することとする。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を、通年で履修しなければならない。	

経営工学科

必修科目としての外国語		英語 8 単位を修得しなければならない。
選択科目としての外国語 (必修以外に外国語を履修した場合)		同一言語同一名称の科目を ・ のペアで修得した場合、6 単位まで卒業要件中の「関連科目」に算入する。 (選択科目としての英語については、下記の英語の履修方法を参照のこと)。
英語の履修方法	必修科目としての英語	必修科目の英語は、プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前期と後期（ ・ ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。
		1 年次では 英語コミュニケーション(Listening) (前) } 英語コミュニケーション(Listening) (後) } 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。 英語コミュニケーション(Speaking) (前) } 英語コミュニケーション(Speaking) (後) } 2 年次では 工業英語 (前) } 工業英語 (後) } 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。 3 年次では 工業英語 (前) } 工業英語 (後) } 2 科目 計 2 単位を履修しなければならない。
	再履修の方法 1 年次の必修科目としての英語を修得できなかった場合は、英語 RE- または英語 RE- (各1単位)を履修しなければならない。ただし、履修できる単位は英語の不足単位分のみであり、履修する年度で同一教員の同じ授業科目を複数履修できない。(合格者の成績は、原則として「可」となる)。 2・3 年次の必修科目としての英語を修得できなかった場合は、当該科目を再履修しなければならない。	
	選択科目としての英語	「外国語科目教育課程表」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。
英語以外の外国語の履修方法 (日本語を除く)		英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 それぞれ初級 A ・ A ・ B ・ B , 中級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C ・ D ・ D , 上級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C に分かれる。 本学入学以前に初級程度以上の知識をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を通年で履修しなければならない。 学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、その指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級 A と A または初級 B と B の組み合わせで、2 単位を修得しなければならない。ただし、スペイン語については、原則として初級 A ・ A ・ B ・ B の全てを修得していなければ中級を履修することはできない。上記初級 4 単位のうち 3 単位を修得している場合は、未修得の初級 1 単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級 A ・ A ・ B ・ B のうちいずれか 2 単位を修得していれば中級の履修を認める。
日本語の履修方法		日本語は「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修には資格認定が必要であるので、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を、通年で履修しなければならない。

建築学科

必修科目としての外国語		英語 8 単位を修得しなければならない。
選択科目としての外国語 (必修以外に外国語を履修した場合)		同一言語同一名称の科目を ・ のペアで修得した場合、8 単位まで卒業要件中の「関連科目」に算入する。 (選択科目としての英語については、下記の英語の履修方法を参照のこと)。
英語の履修方法	必修科目としての英語	必修科目の英語は、プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前期と後期(・)は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。 1 年次では 英語コミュニケーション(Listening) (前) } 英語コミュニケーション(Listening) (後) } 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。 英語コミュニケーション(Speaking) (前) 英語コミュニケーション(Speaking) (後) 2 年次では 英語コミュニケーション(Reading) (前) } 英語コミュニケーション(Reading) (後) } 4 科目 計 4 単位を履修しなければならない。 英語コミュニケーション(Writing) (前) 英語コミュニケーション(Writing) (後) 再履修の方法 上記の授業科目を修得できなかった場合は、英語 RE- または英語 RE- (各1単位)を履修しなければならない。 ただし、履修できる単位は英語の不足単位分のみであり、履修する年度で同一教員の同じ授業科目を複数履修できない。(合格者の成績は、原則として「可」となる)。
	選択科目としての英語	「外国語科目教育課程表」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。
	英語以外の外国語の履修方法 (日本語を除く)	英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 それぞれ初級 A ・ A ・ B ・ B , 中級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C ・ D ・ D , 上級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C に分かれる。 本学入学以前に初級程度以上の知識をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期(・)を通年で履修しなければならない。 学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、その指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級 A と A または初級 B と B の組み合わせで、2 単位を修得しなければならない。ただし、スペイン語については、原則として初級 A ・ A ・ B ・ B の全てを修得していなければ中級を履修することはできない。上記初級 4 単位のうち 3 単位を修得している場合は、未修得の初級 1 単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級 A ・ A ・ B ・ B のうちいずれか 2 単位を修得していれば中級の履修を認める。
日本語の履修方法	日本語は「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)」対象の外国語である。履修には資格認定が必要であるので、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期(・)を、通年で履修しなければならない。	

総合工学プログラム

必修科目としての外国語	英語 8 単位を修得しなければならない。
選択科目としての外国語 (必修以外に外国語を履修した場合)	同一言語同一名称の科目を ・ のペアで修得した場合、8 単位まで卒業要件中の「関連科目」に算入する。 (選択科目としての英語については、下記の英語の履修方法を参照のこと)。
英語の履修方法	必修科目の英語は、プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前期と後期（ ・ ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。 1 年次では、 英語(総合)1- (前) } 英語(総合)1- (後) } 2 科目 計 4 単位を履修しなければならない。 2 年次では、 英語(総合)2- (前) } 英語(総合)2- (後) } 2 科目 計 4 単位を履修しなければならない。
	再履修の方法 上記の単位を修得できなかった場合は、当該科目を再履修しなければならない。
	「外国語科目教育課程表」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。
英語以外の外国語の履修方法 (日本語を除く)	英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 それぞれ初級 A ・ A ・ B ・ B , 中級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C ・ D ・ D , 上級 A ・ A ・ B ・ B ・ C ・ C に分かれる。 本学入学以前に初級程度以上の知識をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を通年で履修しなければならない。 学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、その指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級 A と A または初級 B と B の組み合わせで、2 単位を修得しなければならない。ただし、スペイン語については、原則として初級 A ・ A ・ B ・ B の全てを修得していなければ中級を履修することはできない。上記初級 4 単位のうち 3 単位を修得している場合は、未修得の初級 1 単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級 A ・ A ・ B ・ B のうちいずれか 2 単位を修得していれば中級の履修を認める。
日本語の履修方法	日本語は「外国人留学生」及び、「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修には資格認定が必要であるので、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 原則として、それぞれの科目は前期と後期（ ・ ）を、通年で履修しなければならない。